地元・六郷ペガサスが栄冠

第10回首都圏中学野球大会決勝

うれしい初優勝を果たした六郷ペガサス

第10回首都圏中学野球大会（大田区城南少年軟式野球連盟主催、東京中日スポーツ後援）の決勝が4日、東京都大田区の多摩川緑地グラウンドで行われた。

東京、埼玉、神奈川各県から中学2年以下で編成された、93の軟式クラブチームが参加。7月半ばから続いた激戦を制し、頂点に立ったのは地元・大田区の六郷ペガサス。決勝で敗れた相武台フレンズベースボールクラブ（神奈川県座間市）が銀メダルを手にした。

フレッシュ対決

六郷は以前の六郷レッドジャガーズから1年の休部を経て、新生ペガサスとしてスタートし2年目、相武台はチーム創立4年目と、フレッシュなチームが激突した決勝。六郷は準決勝でブラックキラーズ（東京都足立区）、相武台はグランフレール（東京都大田区）と、ともに優勝候補を破っての頂上対決となった。

初回、六郷が4番・安田一生の適時打で先制、相武台が4回に永井祐太郎の三塁打と高橋直哉主将の適時打で同点とした。

ともに投手の状態は万全といかないまでも、粘投と好守でピンチを切り抜けつつ、試合は終盤へ。5回、六郷が田那邊良太主将の四球を足掛かりに安田、東孝哉の連打で2点を勝ち越し。6回にも大出勝也の二塁打と敵失で2点を加えた六郷が、投げては先発・白石貴誉から東、安田とつなぎ、相武台の反撃を小林章真の本塁打1本に抑え、初の頂点に立った。

▽決勝

六郷ペガサス	1	0	0	0	2	2	0		5
	0	0	0	1	0	0	1		2

相武台フレンズBBC

【六】白石、東、安田―大出【相】小林、池田、小林―坂崎

（本塁打）小林（相）

ライバル倒し 全国制覇だ

大会10年目で、地元に初の優勝旗をもたらした六郷・鈴木昭監督は感無量の表情。「（チームが再スタートした）昨年は1年生だけだったので、ペガサスとしては初出場。サドンデスにもつれる接戦もありましたが、厳しい試合をとおして、チームの輪ができあがってきた気がしますね」と、長い戦いを振り返った。

「最初は1回戦負けかと思ってたんですけど、勝つたびにチームの勢いが増して。ヒットが続くようになって、波に乗れた」。田那邊主将はチームメートに囲まれ、ニコニコと話した。「犠牲フライでもいいから、とにかく打ちたかった」と決勝打の東。最後を締めた安田が「（連打、本塁打を含む被安打4の内容で）調子は悪くなかったんだけど…打たれたのは全部、キャッチャーのリードです」とおどけて笑うと、チームメートから「安田、サイテーだ！　東も絶対、犠牲フライなんて思ってなかっただろ！」と、容赦ないツッコミ。ふざけ合うチームメートを見渡し、田那邊主将が来年の目標を掲げた。

「（同地区でライバルの）大森（ホワイトスネークス）を倒して、全国制覇を狙います！」

にぎやかな六郷ベンチが、一段とどよめいた。

写真お分けします

みんなのスポーツに掲載された写真を有料でお分けします。申し込みは東京新聞・東京中日スポーツ・フォトサービスまで。

☎03(6910)2543
FAX03(3595)6901

楽しい思い出をアルバムに

杉並 2―1 江戸川北
目黒西 2―0 東京和泉
江戸川中央 6―3 東京青山

※3位決定戦の模様などは後日掲載します。

撃手 森龍馬（新宿）▽遊手 上田浩輔（荒川）▽外野手 戸所秀輔（世田谷西）、新庄陸央（練馬中央）、徳永和成（世田谷西）

＝写真

会場には世界少年野球財団理事長を務める王貞治氏、調布リトルリーグ監督時代の教え子で世界一になったときの思い出の写真などを見ながら、それぞれに故人の思い出を語りあっていた。

準優勝の相武台フレンズ

身につけた自信来年こそ

相武台

一方の相武台にとっては、悔しい敗戦となった。4回に追いつき、攻撃のリズムに乗りかけたが、勝ち越された5回裏の攻撃では、小林が本塁打性の大飛球も、走塁ミスで無得点。逆に6回、失策から六郷に追加点を与え、試合が決まってしまった。

強豪を次々と下し、大健闘の銀メダル。それでも、高橋主将は「正直、うれしくないです…。みんな、決勝では硬かった」決勝も決して、力負けではない。それだけに、あきらめきれない重い空気が、相武台ナインに漂った。

最後は悔しく、しかし大きな自信をつけた大会。「このメダルをきっかけに、来年はチーム一丸で、出場する全部の大会で優勝したい」と高橋主将。まだ整理のつかない思いを胸に、来年の飛躍を誓っていた。

次回みんなのスポーツスペシャルは14日（水）付です

みんスポカレンダー

◆学童野球
◇東京新聞杯争奪・第27回東京都学童軟式野球新人戦＝別表◇各地区リーグ戦
◆少年サッカー
◇第32回さわやか杯東京都少年サッカー中央大会＝別表
◆リトルシニア
◇ミズノ杯争奪・関東連盟秋季大会（11日）各地